

<日本レジャー・レクリエーション学会 学会賞>

台湾国家公園における公園事業の発展と多様な主体の参画に関する研究

トウ智益¹

The Research on the Development of the Taiwan National Parks and the Participations of Diverse Bodies to its Management

Chih-i TU¹

1. 研究の背景と目的

台湾では1984年に初めての墾丁国家公園が指定されて以来、これまでに8つの国家公園（日本の国立公園に相当）が指定され運営されてきた。現在の国家公園事業は行政（内政部營建署国家公園組）による直轄事業が中心で、台湾国家公園事業の大半はそれぞれの公園の国家公園管理处が実施している。しかし、近年に社会経済の発展、国家公園への社会ニーズの多様化、及び公園事業内容の多彩な変化によって、行政だけでは全ての公園事業に対応することが難しくなってきた。

一方、世界に目を転じると、現在、各国では国立公園の多様な管理運営方式を模索する動きが加速しており、国立公園の性格（建造物的色彩の強いものから地域制まで）に応じて、行政による直轄方式から地域の運営主体との共同方式まで、様々な方式がみられるようになってきた。

台湾においても、近年の国家公園の指定拡大に伴い、従来の自然環境保全事業に加えて、文化的景観や歴史的街並み、二次的自然など多彩な環境の保全管理が求められるようになりつつある。こうした多彩な事業を進めるためには、民間企業やボランティアの参入だけでなく、さらに進んで、財団法人、NPO・NGO、地元組織など、いわゆる地域の「多様な主体」の参画が必要な時代になったといえる。各主体が、国家公園事業に関して担うべき役割及び環境保全に関する行動の有する意

義を理解し、それぞれの立場に応じた役割の下で自主的積極的に行動することが重要である。

そこで、本研究では次の4点を具体的な研究の目的として設定した。

①台湾の国家公園事業の発展のプロセスを明らかにし、これから求められる分野も含め、国家公園の事業内容を分類整理する。

②多様な主体が国家公園事業にどのように参画してきたかを明らかにする。

③現在から将来に向けて、国家公園事業と、それを担う多様な主体との関係を整理し、それぞれの可能性や課題を検討する。

④それをもとに、新しい国家公園事業のあり方を展望する。

2. 研究の方法と論文の構成

研究の具体的な目的を受けて、本研究では次のような研究方法を採用した。まず、①これまでの台湾国家公園の発展プロセス及びいくつかの国家公園における公園事業の具体的な展開を追う中で国家公園事業の体系的な分類を行った。②並行してパークボランティアの参画過程など国家公園事業の主体の展開プロセスおよび将来事業を担うべき主体の検討を踏まえて多様な主体の分類整理を行った。③横軸に①で作成した公園事業の分類、縦軸に②で作成した事業主体の分類を配したマトリックス表を作成し、国家公園事業の担当者（營建署国家公園組の担当官）を対象に、各公園事業

への様々な主体の参画可能性評価を実施した。④陽明山国家公園で活動するパークボランティアを対象に活動状況に関する意識調査を実施すると共に③で作成したマトリックス表を用いて様々な公園事業へのパークボランティアとしての参加意向調査を実施した。⑤自然環境から文化的景観まで台湾の国家公園の縮図ともいえるべき多彩な環境を有する金門国家公園を対象に、行政担当者およびボランティアを含む関係主体に対して詳細なヒアリング調査を実施し、国家公園事業の内容と評価、それを担う主体の現状と評価、将来の課題と可能性を把握した。⑥以上の結果を総括し、内政部營建署から環境資源部環境資源管理局への所管替えが予定される中での、新しい国家公園事業とそこへの多様な主体参画のあり方、さらにはそれを前提とした事業の実施方法について提案を行った。

3. 結論

本論文では、国家公園の事業内容および多様な主体の参画事業や活動内容を細かく分類整理し、事業内容と多様な主体の特徴に応じた参画可能性領域を提案できた。

その結果、政府と非政府（NGO など）の共同参画のネットワークングの中で、それぞれの責任の所在、責任の種類と割合、責任の比重等の政府と非政府の微妙なバランス見えるようになったといえる。

これまで台湾国家公園事業のほとんどは、内政部營建署で計画策定が行われ、それを限られた主

体に事業委託を行い、委託された主体が実施するという運営がなされてきた。本研究で整理してきた国家公園事業と実施主体の可能性を考えると、将来は、従来のように行政から事業を委託され実施するだけでなく、事業の管理運営全般を多様な主体が担い、行政はそれをサポートする（コーディネートする）体制に移行することが必要と考えられる。こうすることによって、社会的ニーズ、様々な利用形態、住民の意思に細やかに対応できるような事業計画、運営ができるようになると考えられる。

しかし、台湾の国家公園は営造物的性格の強いもの（玉山国家公園など）から典型的な地域性の公園（金門国家公園など）まで多様性に満ちている。多様な主体参画の方法や段取りとしても、まずは地方政府の役割を大きくするなど、国家公園の事情に応じて、また事業内容に応じて様々な方式・段取りが検討されるべきと考える。

国家公園管理における多様な主体の役割としては、多様な主体の参加する合意形成の場の中心として様々な主体をまとめる役割が最も重要である。その一方で、ボランティアなど多様な主体には自律的に活動しようという意識を組織としてまとまって持てないという問題がある。このような主体が、活動を進めていく中で様々な主体を国家公園管理に巻き込んでいくことで、地域制公園である台湾国家公園の管理において必要とされる、多様な主体が参画し、かつ連携した国家公園管理の実現が可能となるのである。